

平成 31 年度 総合政策学部 一般選抜・後期日程

<出題意図>

近年のインターネットの普及に伴い、私たちが日常的に接する情報の量・質はともに変化してきたが、同時に、多種多様な情報への向き合い方や SNS 上などでの意見表明の仕方もますます問われるようになってきている。

一方、特に日本においては他者といかに「対話」していくか、ということも語られるようになってきた。これはシンプルな行為に見えるかもしれないが、今回の資料で述べられているように、現代日本において、少なくとも一定数の市民が「対話」や「論じ合う」場を求め続けている状況がある。それはなぜかと問うていく中で、時に「閉塞感」とも呼ばれる日本社会の奥底を垣間見ることができるであろう。

総じて、今回の出題テーマを通して、コミュニケーションの「スキル」というよりはむしろ、「対話」が根本的に持つ意味を再検討し、現代社会の問題性に想像を広げながら、自己と「他者」とが共存する社会の土台について考察を深めてほしいという意図がある。この思考は、とりわけ総合政策学部での学びという文脈においても、具体的な諸問題を解決に導く上での民主的なプロセスとして肝要といえよう。また、グローバル化が進む日本や世界社会において、異なる社会・文化の人々といかに折り合いをつけていくかということは今日的な課題の一つであろう。

なお、今回の入試問題について、本学部の AP で求める能力と特に関わるのは「文章作成能力」と「論理的思考能力」である。併せて、現代社会の状況に幅広い関心を持ちつつ、そうした諸状況と資料中の主張、さらに自らの知見や経験を結びつけながら思考する力も問うている。

問 資料(A)～(C)を読み、次の問いに答えなさい。

問 1 資料(A)の下線部に対して、作者は最終的にどのようなことと考えているか。「絶対」という言葉を用いて 120 字以内で説明しなさい。

【解答例】誰にでも「絶対に」正しいと思うことや「絶対に」大切だと思うことはある。しかし、そうした自分にとっての「絶対」は必ずしも他者にとっても「絶対」であるとは限らず、一つの考えを「絶対視」すると真実に迫ることはできない、ということ。(112 字)

*ねらい：作者が述べている内容およびロジックの読み取りの力

*採点基準：

- ・「絶対」という言葉が用いられているか。筆者のロジックが理解できているか。
- ・基本的なロジックがおさえられていれば、「対話」などの語を含めた解答の仕方もありうる。

問 2 資料(C)では、「対話」について、作者はどのような「話し合い」や「話し方」と捉えているか。

「対話」と異なる話し方として挙げられている例との対比を踏まえながら、資料中の言葉を用いて 150 字以内で説明しなさい。

【解答例】対話は、議論の勝ち負けを決めたり異論を許さないという話し方ではなく、ある論点が往復するうちに互いに大きな視野が開けるような「プロセス」に意味のある話し合いである。こうした対話では個性や人格を背景に自己を開放した話し方がなされており、人間としての相手との対等性や個人の尊重が土台とされている。(145字)

*ねらい：作者の主張の読み取りの力と要約力

*採点基準：

- ・資料(C)中の、「対話」と異なる話し方に言及されているか。
- ・作者が何ヶ所かで書いている「話し合い」や「話し方」という語をヒントに、適切にポイントを抽出し要約できているか。
- ・作者の基本的な主張を理解しているか。

問3 資料(B)(C)では、「見ず知らずの人」や考えの異なる人との議論や対話の場が継続されてきた様子が描かれている。そうした継続の社会的背景として、どのようなことが資料(B)(C)から読み取れるか。これら二つの資料中の言葉を用いながら160字以内で述べなさい。

【解答例】私たちの日常では、見ず知らずの人たちと社会や人間について論じ合うことはほとんど無い。しかし、現代の日本社会において「対話欠乏症」が生じ、このような社会に対する「鬱積した魂の飢え」や、「対話」のない「民主主義社会の底が抜けた状態」に人々が不安を感じていたことが、対話の場の継続を促してきた社会的背景として読み取れる。(157字)

*ねらい：内容の読み取りの力と編集力、および想像力

*採点基準：

- ・資料(B)(C)の言葉が用いられているか。
- ・作者の叙述から、現象の奥の社会的背景について適切に読み取れているか。

問4 現代社会において、立場や考えの異なる人と「対話」する際にどのようなことが必要であると考えられるか。資料(A)～(C)を踏まえ、かつ具体的な例を挙げながら、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

【解答例】近年、SNS等で全く知らない人との会話や意見交換が可能になっている。とはいえ、こうしたインターネット上でのやり取りは「炎上」に至ることもある。例えば、私の知り合いがSNSで発言したところ批判的な意見が多く寄せられ、彼は強いストレスを抱えて最終的に自分のサイトを閉じた。

このように、SNS上で相手の考えを十分に聞き、違いを調整することは難しい時がある。しかし、こうした困難は、身近な学校や地域で問題が起こった時に生じる可能性も大いにあろう。

では、現代社会において、立場や考えの異なる人との対話では何が必要なのだろうか。その一つは、資料で示されていた「聞く人の誠実さ」であろう。こうした聞き方は、時間に追われる現代日本では非効率かもしれない。だが、自分の話が真剣に聞かれているという感覚は「次は自分が真剣に聞こう」という心情を生むことが期待でき、この循環は他者との信頼構築を促進すると考える。

そのためには、やはり「率直さ」も必要だろう。以前、あるニュースについて友達と語りたかったが、彼の反応が気になり、結局諦めたことがあった。だが、言いたいことが自分の中に溜まったことも確かである。相手を尊重しつつ自己開放しながら論じ合うことは簡単ではないが、互いの相違点は率直に語ることでより鮮明になるだろう。

現代の様々な問題を解決に近づける上でも、こうした対話の素地を常に作り続けることが重要ではないか。(599字)

*ねらい：総合的な思考力、想像力、現実社会に対する関心・視野

*採点基準：

- ・資料の内容が踏まえているか（作者の主張として理解できているか）。
- ・具体的な例が挙げられているか。具体例の範囲は多様なレベルでありうるが、資料の内容を自分なりに咀嚼した上で具体的な想定がなされていれば可。
- ・上記二点を踏まえつつ、現代社会における「対話」について、一貫性をもって自分の考えが明確に述べられているか。